

第72回研究大会 Online (2022年12月10日実施)

情報交換会「授業改善」報告

1. 実施の主旨

カリキュラムマネジメントの必要性が注目され、要求される昨今、その推進に向けた授業改善サイクル作り等について関心を持つ方々も増えてきている。もともと、授業改善に向けた各教科における具体的な授業提案や実践の検証は、教科分科会において主眼の置かれるところだが、授業改善の方法自体や、各校取り組みを進めているであろう教科を越えて話題にする場というものがあまりないため、今回の情報交換会「授業改善」を企画し、実施した。この会で、参加者同士が、個人、教科、学校など様々な次元での取り組みを共有し、困っていることや課題についてともに考えると同時に、本校も他校から学び、その状況を知り、具体的なアイデアの芽を収集する機会としたいというねらいもあった。

2. 実施内容

(1) 提示したスライドの内容 (一部省略)



02

個人としての 取り組み

個人としての「授業改善」の視点

3. 情報収集・自己研鑽の方法

- ①教材について書籍や指導資料等で調べる
- ②研究会、セミナー等に参加する
- ③学会等に参加する …

個人としての「授業改善」の視点

1. 何に向かって

- ①指導技術の向上を目指す
- ②今日的キーワードを目的に据える
(例)主体的、対話的で深い学び、ICTの効果的活用、評価の適正化、観点別評価、協同的な学び、個別最適化…
- ③担当生徒に応じた課題を目的に据える
(例)学びの系統性、中高・高大の接続、基礎・基本の重視、受験対応、ルーツの異なる生徒への対応、格差解消…

03

教科・科目としての 取り組み

教科・科目としての「授業改善」の視点

1. 何に向かって

- ①指導技術・教科の専門性の向上を目指す
- ②教科ごとの今日的キーワードを目的に据える
(例)グループワークで「読む力」を育てる：国語
鑑賞力を高めるためのICTの活用：芸術
社会事象をグローバルに見る力を養う：社会 …
- ③担当生徒に応じた課題を目的に据える
(例)数学嫌いをなくす、面接のスキルアップ …

教科・科目としての「授業改善」の視点

2. 具体的な見直しの方法

- ①同僚や他校の先生と、授業内容を共有する
- ②教科・科目で生徒による授業評価を実施する
- ③校内/校外で、授業評価を実施する
- ④校内/校外で、授業公開や協議会をする …

(例)本校：筑波大学附属高等学校の場合

- ・数学科で、教科共通の生徒授業評価アンケートを実施し、分析している
- ・社会科、体育科で、小・中・高の合同研究会を定期的に継続して開催している
- ・理科(物理)で、学習前後で授業効果の測定・分析している
- ・数学科・英語科で、入学時の基礎学力調査をしている
- ・総合的な学習の時間でアセスメントテストを実施している

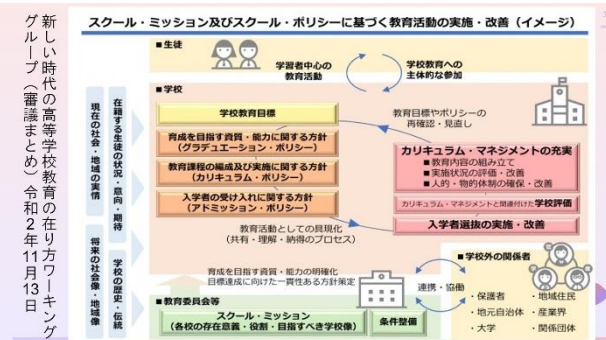
04

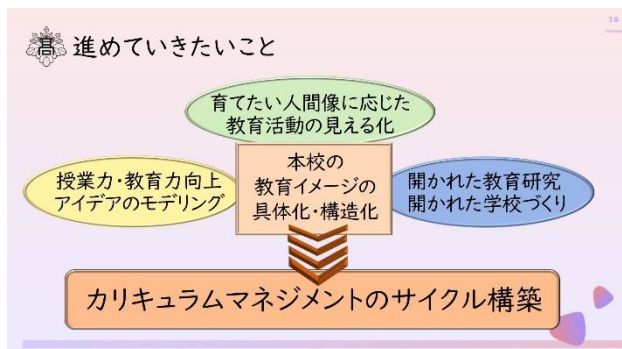
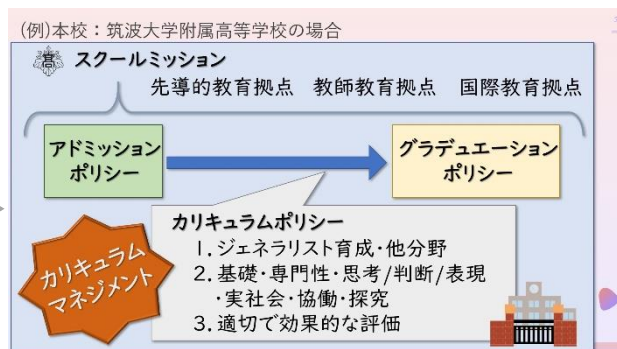
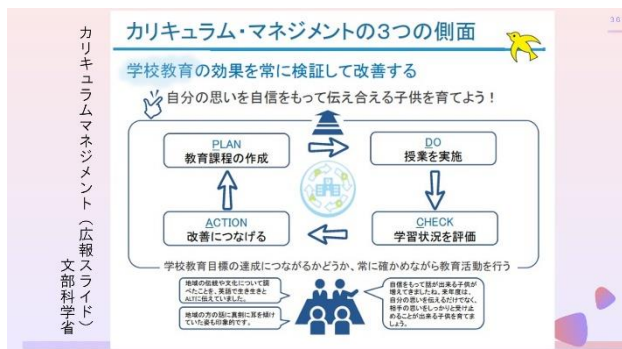
学校全体としての 取り組み

学校全体としての「授業改善」の視点

1. 何に向かって

カリキュラムマネジメントに
位置づけられるもの





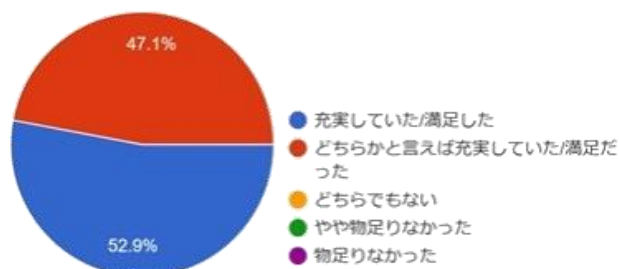
- 学校全体としての「授業改善」の視点
2. 具体的な見直しの方法
- ①校内で授業を互いに見合える環境作り
(例)「授業を見合う会」
 - ②外部の人との交流の場作り
(例)「拡大授業を見合う会」
 - ③アセスメントをシステム化する(学力調査など)
- 育てたい生徒像、学校の魅力への共通意識
同僚性の向上、多面的評価の工夫 等

(2)参加者の様子

参加申し込み 63 名、実際の参加者 40 名程度。本校教員 5 名。参加後の満足度

まず、上記のようなスライドを使って本情報交換会的主旨説明や、ディスカッションをする視点を整理した上で、ブレイクアウトルームを 3 つの項目についてブレイクアウトルームを実施した。Online では話づらい場合や、時間の関係で話せなかったものを集約することかかねて、事後アンケートを実施したが、回答率は低く、回答者は 17 人だった。

17 件の回答



《事後アンケートより》

【1】授業改善に向けて、個人としてなさっていることがあれば、お書きください。

- ☞ 授業記録をとる。書籍を読む。セミナー研究会に参加する。
- ☞ 生徒への授業評価アンケート、授業見学、自身の授業の録音、生徒・同僚に感想を立ち話で聞くなど本を読んだり、研究会に参加したりなどしている
- ☞ 評価の改善 生徒が自主的に取り組むことができる課題の作成
- ☞ 研究授業は年に 2 回は実施している。研究授業については何をテーマにしているか？どこを見て欲しいかを明示し、その後の意見交換でもそのことについて話しあうようにしている。そこで出た改善点等について来年度以降の課題として、来年度の研究授業はそのことをテーマとして作成するようにしている。なるべく年に 1 回は教科融合にも取り組み、他教科とのコラボをして、そこでの意見交換も行っている。社会科(世界史)以外に探究も担当しているので、社会科で取り組めない内容は探究などで取り組むようにしている。
- ☞ 指導と評価の一体化。アンケート(学習についての振り返り、授業について感想要望)、原文資料の読解。
- ☞ 研修会情報を手に入れたり、他科も含めた授業見学を行う

【2】授業改善に向けて、教科・科目として（校内外問わず）なされていることがあれば、お書きください

- ☞ 指導法のアップデートと教員間での共有、研究授業の実施と参加
- ☞ グーグルドライブで映像資料などを共有して使用している
- ☞ 評価の在り方の検討
- ☞ 研究会への参加
- ☞ 授業内容を深める目的で試験範囲内で自由に探究レポート課題を出題した。その結果、生徒が主体的に調べ知識の軌道修正を行っている様子が見られた。中には、授業者にとって思わぬ知識違いをしている生徒が、自分で調べて正しい理解に修正できた例や、授業者も詳細は知らなかったようなことを調べていたり、授業者の具体的な考察にはなかったようなことを書いてくる生徒もいた。生徒個々の具体的な思考の変遷を感じることができ、結果的に授業者にとっての授業改善の糸口になったと感じている。今後も、私自身の授業改善の一環としても、レポート課題を出すことを繰り返していこうと考えている。

【3】授業改善に向けて、学校として実施していることがあれば、お書きください

- ☞ 授業評価アンケート
- ☞ 授業評価アンケート（年3回）、アセスメントテスト（学力調査：模試年3回）
- ☞ 常勤か専任一年目の先生には管理職や教科指導部長が授業を見に来る（来年度の評価のためであるが、アドバイスを頂けるので参考になる。）
- ☞ 教科横断授業の奨励 地域連携
- ☞ ICT委員会、デジタルサポーターによる研修
- ☞ 授業評価アンケートを実施しているが、設問は校内に共通しており、生徒も書いたところで授業担当者に通じている肌感がないため、形骸化している。生徒の意見を聞いて授業改善を行おうと思っている教員は、各自で自分の授業に対するアンケートを実施しており、生徒はそういった教員こそ授業改善をしようとする姿勢をもつ教員だと見抜いている。授業評価アンケートの結果も、他教員に見られることを極端に嫌う教員もあり、教務担当者や管理職はとても気を使っている。そのため、授業評価アンケートの結果をもって、授業改善につなげることはできないし、アンケート結果の数値もあまり意味をなしていない。

【4】授業改善に向けてお考えになっていること、上記1～3に当てはまらないこと、などをお書きください。

- ☞ 同僚性を高めていくことが大切だと考えています。私は英語科ですが、個人の力には限界があり、チームとして取り組む必要があります。生徒も教員も目標に向かって学んでいく空気作りができるようになることが最終的なゴールです。そのためにも、まずは自身の授業力をあげる必要があると考えています。今回の研修では、同僚性向上のヒントを得られた気がします。ありがとうございます。
- ☞ これからは問いに対して自分で説明できるようになる授業が必要だと思うが、記述をテストやプリントに入れて評価に使うと手間がかかりすぎてさばけない（1年生は160人ほど持っています）。生徒の暗記だけではない力もはかっていきたいが、どのように評価すれば、コスト低くかつ的確に評価できるか悩んでいる。
- ☞ 校内全体で取り組むことが重要だとは思いますが、結局、個人プレーでしかできないことがもどかしい気持ちです。どうすれば、校内全体で向上していくことができるのか…。といって、授業というものの自体が、個性を表すものですから、難しいですね。

3. 実施の意義

- ☞ 参加者の様子からは、「授業改善」に関してそれぞれ実践していることがたくさん話されるというよりは、意識は持っているがどう実施していけばよいか、他の人の実践を聞きたいという方が多かったような印象であった。それでも、「教科だけでなく、教育活動全般を再考できたため。教科や生活指導に早速活かしていきたいです。
- ☞ 色々な教科や校種の方のお話を伺うことができて良かったです。
- ☞ 進行がスムーズで、たくさんの学びがありました。
- ☞ 特に全体のほうで話題を提示してくれて方向性のきちんと定まった情報共有ができました。
- ☞ 個人レベルから学校レベルで振り返りの方法を共有・確認できて非常に参考になりました。
- ☞ 個人、教科、学校という単位にわけて、何に向かうか、具体的な見直しの方法をさぐるというアプローチはよかったです。自分個人の小さなカラに閉じこもらず、いろいろな人から刺激を受けつつスモールチェンジを日々繰り返して変化していきたいと思いました。」といった感想があり、一定の意義はあったと思われる。一方、「グループワークの時間を確保していただいてありがたかったが、もう少し時間がほしかった。
- ☞ ブレークアウトで場を回して下さる方がいらっしゃらずあまり活発に意見交換ができなかった」という意見もあった。ブレークアウトに本校教員が入れないところは議論が滞る状況も合った。今回は、話題を広く総論的なところで開いたが、これをキックオフとして継続的に具体的なテーマでシリーズ化して、各教科分科会では扱えない実践報告や情報共有の場を作っていくというのもひとつの案であると思う。